

平成28年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 12	項目名	雑紙分類用保管袋作成費			主要な施策の 成果 ページ	61	担当 部署	環境経済部 ごみ減量推進課	
予算 科目	会計	1	一般会計		総合 計画 体系	分野	環境		
	款	4	衛生費			基本方針	資源循環型社会の構築		
	項	2	清掃費			施策	廃棄物の発生抑制・資源化の推進		
	目	1	清掃総務費			当初予算における区分	新規施策・拡大施策・重点施策 <b>その他</b>		
事務事業	215	ごみ減量化対策推進費			↑該当するものを○で囲んでください				

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) ・一般廃棄物(ごみ)処理基本計画に定めるリサイクル率の数値目標(平成33年度に24%)の達成が厳しい状況の中で、更なるリサイクルの推進の一つとして、焼却ごみ類に含まれていると思われる雑紙類の分別徹底・資源化を促進することが有効であることから雑紙分類用保管袋を作成したものである。 ・また、資源回収活動団体など古紙回収に一定理解のある方からも、「雑紙は新聞やダンボールと比べどんなものが雑紙になるのか判断が難しく排出方法がわからない」などの問合せもあり、作成した雑紙分類用保管袋には、どのようなものが対象となるのか、古紙の主な禁忌品などの説明も記載したところである。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) ・資源回収活動推進奨励金登録団体 ・その他、ごみ減量に関するイベント参加者
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) ・日常的に雑紙も分別する必要があるということの意識付けを持っていただき、リサイクル意識を高めていただく。 ・雑紙の回収量を少しでも、増加させることで、リサイクル率の数値目標達成に寄与すること。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) ・雑紙保管袋を作成し、資源回収活動推進奨励金登録団体説明会を通じて、その必要性なども説明しながら、登録団体に一定枚数を配布した。また、リサイクルフェアや各地域のふれあいまつりの機会を通じて、希望される市民にも配布した。

■ 予算・決算状況

		当初予算の状況					決算の状況・実績				
内訳・詳細		雑紙保管袋作成費 340,200円(45円×7,000枚×1.08)					雑紙保管袋作成費 317,520円(42円×7,000枚×1.08)				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	予算・決算額	341			341	318				318	
	前年度比	-					-				
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)		額の減額理由: 入札により単価が下がったため。 事業の進捗状況: 対象者へ雑紙保管袋を配布することができ、当初の計画どおり事業を遂行できた。									
◆平成27年度 事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源	
	0				0	0				0	

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	2	市民ニーズが高い	ごみの減量という生活に密着した事業であり、他の施策に比べると優先度は低いと考えられるが、地道な啓発活動を進めるために必要なツールの一つである。
	2	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	2	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	法令で義務付けられているものではないが、草津市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画に定めるリサイクル率の数値目標(平成33年度に24%)の達成のために、当該事業によりリサイクル率の上昇を目指すものである。
	2	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	2	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	3	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	1	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	2	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	古紙回収に一定理解のある方には、雑紙保管袋には分別方法等が掲載されており、確認しながら分別することができるので活用しやすいものではある。理解が薄い方には、効果的な活用は難しいと思われる。
	2	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	2	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	2	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	資源回収活動団体や当該活動の協力者に対し配布されれば一定効果はあるものと思われる。
	2	初期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	3	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	3	当該年度の事業目的を達成できた	雑紙の回収量の増加や焼却ごみの減少など一定の成果はあるが、リサイクル率の数値目標達成のため、さらなる啓発が必要である。
	3	受益者の評価が得られている	
	2	費用対効果が大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.およそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源回収活動事業の雑紙(雑誌)類の実績が上昇し、リサイクル率が向上した。 平成27年度 782t → 平成28年度 785t</li> <li>・焼却ごみ類のクリーンセンターへの搬入量が減少した。 平成27年度 19,533t → 平成28年度 19,332t</li> </ul>					
事業に対する市民の意見、反応	「雑紙保管袋の掲載内容で今まで分かりづらかった雑紙の定義や分別方法等がよく理解できた」という意見をいただいております、リサイクル意識の向上に繋がっている。					
事業の今後の課題、将来展望	雑紙保管袋は、掲載されている分別方法等を通じて分別の判断が難しい雑紙について理解を深め、日常的に雑紙を分別することの意識付け・習慣付けを目的としており、資源回収活動団体など古紙回収に一定理解のある方への配布を通じて、その目的は達成されるものと考えられるが、今後もリサイクル意識の向上とリサイクル率の数値目標達成に向けて、様々な排出者に対する新たな手法を調査・研究しながら、事業を展開していく。					
※平成29年度の 予算措置	予算額 (千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		343				343
	28年度比 積算根拠	101%				
	雑紙保管袋＋雑紙保管シール作成費 342,900円(45円×5,000枚×1.08+18.5円×5,000枚×1.08)					

※ 当該事業が平成28年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。